

カテゴリー的直観と時間性

ハイデガーにおけるフッサールの志向性受容

若見 理江（京都造形芸術大学）

ハイデガーは、しばしばフッサールのカテゴリー的直観と自らの存在の問いとの関係について言及していた。しかし、とりわけフッサールのカテゴリー的直観について詳細に取り上げている1925年夏学期講義『時間概念の歴史への序説』でも、カテゴリー的直観が具体的に『存在と時間』のどの部分に引き継がれているのかについて論及されておらず、ハイデガーの「存在」をめぐる問題との関係が不確かである。たしかに、フッサールもカテゴリー的直観に関連して「存在」を語ってはいるが、それは繫辞「である」という意味での「存在」であり、またイデア的対象性としての「存在」である。つまり、『論理学研究』では「認識」が主題とされているのに対し、『存在と時間』では「現存在の存在」が主題とされているのであって、フッサールのカテゴリー的直観が直接ハイデガーの存在の問いに関係しているとは言い難い。

ハイデガーはギリシアに始まる西洋哲学の歴史を「存在忘却」によって特徴づけた。1925年の講義では、フッサールが「志向的なものの存在」を問わず、「存在の問い」を看過していることが指摘されている。だがその一方で、ハイデガーはフッサールの志向性を積極的に評価しており、1923/24年冬学期講義『現象学的研究への入門』では、志向性の発見によって哲学史全体のなかではじめて徹底した存在論的研究のための道が開かれたとも述べている。つまり、フッサールの志向性の研究によって存在を問うことが可能になったのだが、フッサール自身は存在を問うことはなかったという、ハイデガーの両義的な見方がある。たしかに、志向性の発見はハイデガーに存在を問うための決定的な視点を提供した。しかし、フッサールの立場では繫辞の存在やイデア的対象性が示されるにとどまるのであり、さらに志向性およびカテゴリー的直観がもとづいているものを明らかにすることが必要であった。それがつまり「時間性」であり、ハイデガーはフッサールの志向性に関する研究を軸にギリシア哲学やキリスト教思想を解釈するなかで、志向性は時間性にもとづいているという観点を獲得していったと推察される。

1925年の講義では、現象学における三つの決定的な発見として「志向性」と「カテゴリー的直観」と「アプリアの根源的な意味」が取り上げられ、これらの考察によって「時間」が現象的に見えてくると言われている。カテゴリー的直観は「志向性の具体化」であり、志向性もその具体化であるカテゴリー的直観も最終的には「時間」に引き戻されることが示唆されている。したがって、フッサールのカテゴリー的直観とハイデガーが存在の問いのために要請するカテゴリー的直観とのあいだに見られる相違は、「現存在の存在の意味」である「時間性」という観点を取り入れることによって説明可能となるように思われ

る。

明確にすべきことは以下の四点である。第一に、ハイデガーにおいて「直観」は「理解」の派生態であり、カテゴリー的「直観」を「理解」から捉えることによってどのような違いが出てくるのかということ。第二に、フッサールにおいて「カテゴリー的直観」は「感性的直観」と対になる働きであるが、ハイデガーの存在の問いにおいて「感性的直観」はどのような扱いになっているのかということ。またこれと関連して、フッサールでは「カテゴリー的直観」と区別される「普遍的直観」は、ハイデガーにおいてどのような位置づけになっているのかということ。第三は「カテゴリー的代表象」に関する点であり、フッサールはカテゴリー的直観のうち感性的直観と同様に「代表象」を認めていたが、のちに『論理学研究』第二版の序言では、「カテゴリー的代表象」についての理論をもはや是認しないと述べるにいたった。これに対して、ハイデガーはフッサールのカテゴリー的直観を解説する際に「代表象」の問題について触れておらず、フッサールの以上のような「カテゴリー的代表象」に対する考えの変化についても言及していない。ハイデガーにとっては、フッサールを煩わせた「カテゴリー的代表象」の扱いがそもそも問題にならなかったように見える。それはなぜなのかということ。さらに第四として次の点が挙げられる。『論理学研究』において詳細に論じられていたカテゴリー的直観は、その後の著作では主題化されなくなる。このことは、『論理学研究』以後のフッサールの現象学がハイデガーの存在の問いとまったく関係がなくなるということを意味しているのかということ。

以上の点について考察することによって、ハイデガーがフッサールのカテゴリー的直観とどこまで問いを共有し、どこから独自の解釈を施したのかということの境界が鮮明になり、ハイデガーのフッサールに対する両義的な態度の含意がはっきりしてくるようになると思われる。